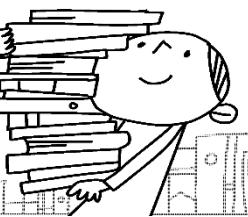


みんなでつながる わ！



学年行事、運動会、遠足…と行事が多く、多忙な2学期も後半戦。続々と研究授業も行われています。今回は、全体校内研究授業で行われた4年生の研究授業を振り返っていきます。

4年生の研究授業では、「ごんぎつね」での学習を活かし、他の新見南吉作品で登場人物の心情が表現されている部分とその根拠を話し合い、リーフレットにまとめる学習を行いました。交流や活動を活発に行えるように、教師によるモデル動画の作成や交流時に使える言葉を集めた掲示物など様々な工夫がありました。

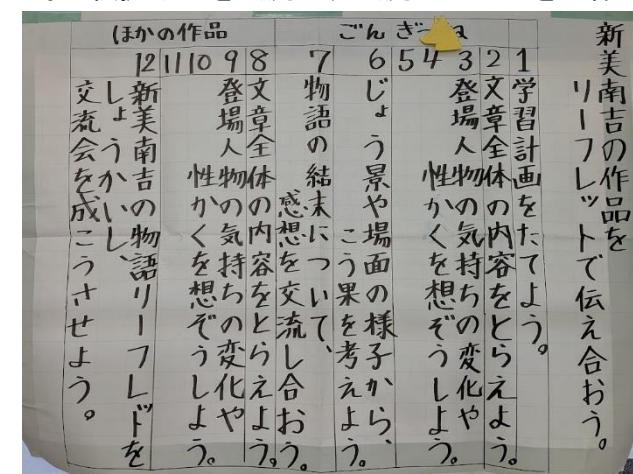
単元名 『新見南吉の作品をリーフレットで伝え合おう』 全12時間

教材名 「ごんぎつね」（光村図書／4年下）

本時の目標：
 ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。
 ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。

【授業者・学年より】

- ・ごんぎつねでは、心情変化の分かる部分やその根拠などを交流し、交流したことを全体で共有しながら学習を進めていった。
- ・今まで話す話し合いの進め方や意図が理解できず、学びに活かされていないことが多かった。が、受け身だった児童が「聞いてもらえる」という体験の積み重ねにより、自信へつなげることができた。
- ・教室内の掲示物やワークシートのスモールステップが、書くことが苦手な児童にとってよい手立てとなっていた。



・今後は、話し合いを通して、自分の考えを書き表せることができるという児童を増やしていくなければならない。書けるというゴールに向けて、子どもたちも考えの交流や共有が必要だと感じることができた。

グループでの協議について(一部抜粋)

研究協議の柱

- ① 主体的・対話的な学びを促進するために、単元計画は工夫されていたか。
- ② 対話的な学びを促進するために、手立ては有効であったか。

よかつた点

- ・「リーフレットを作成できたぞ！」という達成感が味わえたことがよかつた。
- ・聞き方名人の提示がよかつた。もっと実際に活用できたらよかつたかも。
- ・モデル動画がよかつた。スムーズに話し合いに入ることができていた。2人という人数も役割がはっきりしていた。
- ・ワークシートの選択肢がたくさんあったから、子どもたちの意欲が高まっていた。
- ・学習用語がしっかりと抑えられていて、子どもたちの学習に活かされていた。
- ・自分の本を持てる喜びがあった。書き込みも自由にできるのがよかつた。
- ・「ごんぎつね」（習う）から「新見南吉作品」（使う）への二重構造が良かつた。定着することで話したい、書きたいという気持ちが高まつた。
- ・悩んでいるところを相談するという切り口からスタートする話し合いもいいと思われる。⇒話し合いの必然性が生まれる。



＊＊聞き方名人＊＊

「ごんぎつね」の学習時より、あいづち、比べて話す言葉、聞き返す言葉など、を短冊で掲示。子どもの中から出てきた言葉も掲示していました。

改善点等

- ・誤読した内容でリーフレットに書き込んでいた子どもがいた。
- ・たくさん線を引きすぎている子もいた。
- ・気持ちの変化をそれぞれの話で本当に捉えることができていたか。必ずしも最後の場面で気持ちの変化があるわけではない。
- ・リーフレットの定義とは？いろんなリーフレットを実際に見せたり、書き方などを説明したりする時間があつてもいいかもしない。



- ・交流の場面で評価するとき、話し合いの内容や考えを聞き逃していることもあるので、録音してみてはどうか。
- ・話し合いというより、線を引いたところを発表するというようなペアもあった。

講師の先生より(本単元・本時の学びのポイント)

- ・子どもたちの気づきが多い授業内容であった。ペアで話すことによって、モヤモヤしていたものが解決につながっていた。また、話し合いが「中心人物の気持ちの変化」に焦点化されていたことが効果的で、考えたい気持ちにつながった。
- ・読みたい本を選んでリーフレットを作成することで、意欲が高まっていた。
- ・並行読書を進めておき、「ごんぎつね」の学習が終わってからもう一度自分が選択した本を読み直すという学習方法もある。
→何度も読み直すことが大切。誤読も減る。
- ・言葉に着目して、部分的ではなく全体を通して学習を進めていたことが、これから学習につながっていた。
- ・評価規準について…このリーフレットの内容が目標である「気持ちの変化をとらえて、感想をもつ」に沿って書けているのか。
そういうときは指導事項に着目し、「自分の体験や既習の内容と結び付けて」ということが交流の中でできていたのかを見直すとよい。
→本時では、随所にこのような交流をしている姿が見られたため、規準を満たしていた。
- ・次時でリーフレットに本の感想を書く(自分の考えの形成を表現する)学習の際、手立てとして、「わたしだったら…」「今まで読んだ本から…」など自分の経験や既習の内容と結びつけるような声掛けがあればよい。

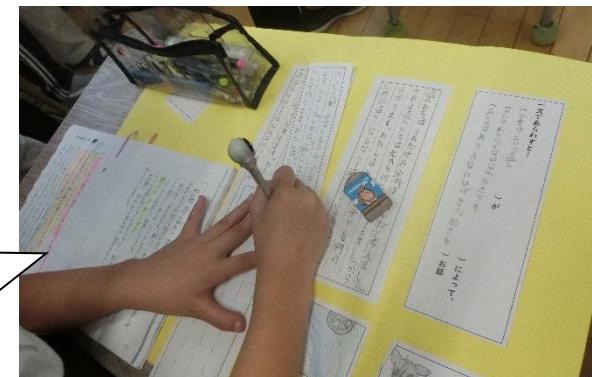


* * 交流の様子 * *

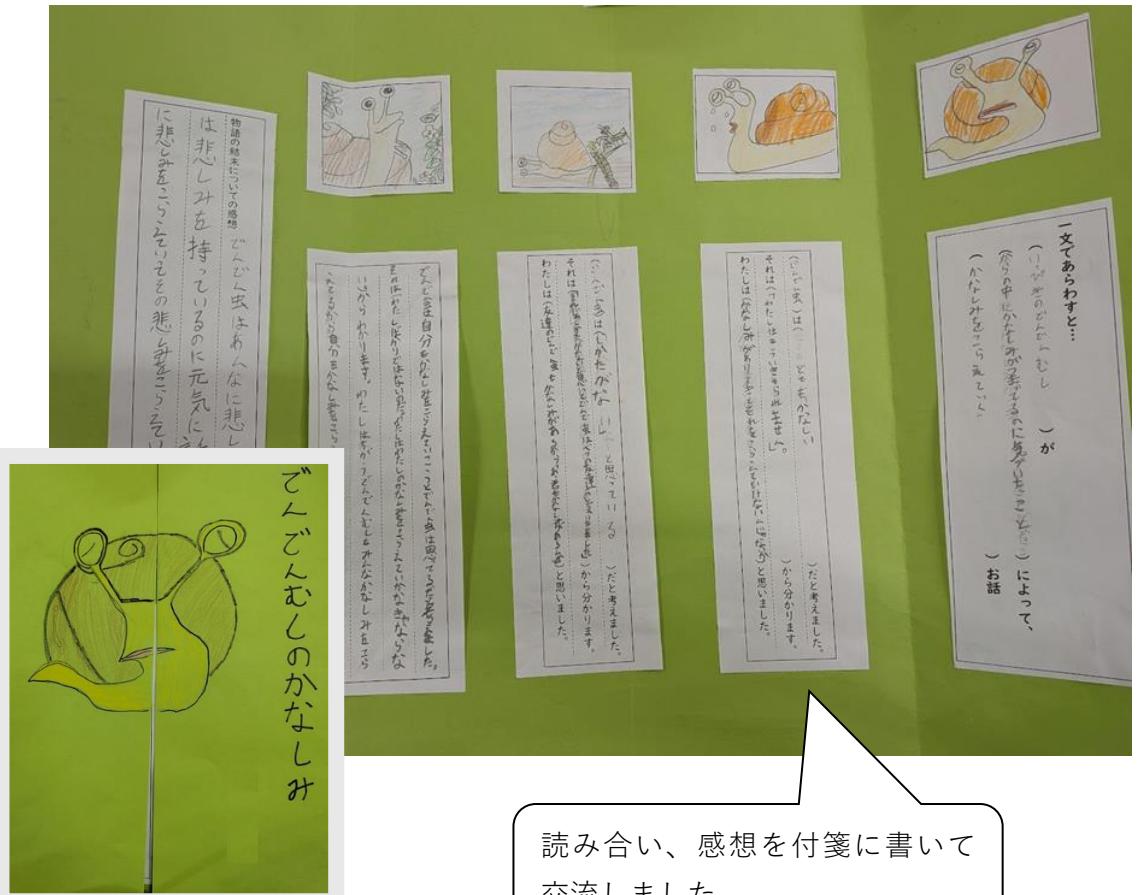
友だちが選んでいる文章でよいと思ったところを、ちがう色のマーカーで線を引く児童もいました。

* * リーフレット作成 * *

ワークシートの短冊は、自分で選択。画用紙の色も選んだ作品のイメージから好きな色をしたようです。



できあがった作品



読み合い、感想を付箋に書いて交流しました。

～今回の研究～

指導者の子どもたちへの説明や指示が的確で一貫していたこと、活動中の助言も絶妙なタイミングだったことに感服しました。単元当初、書くことが難しく先生がそばにいないとできなかった児童も、繰り返しの学習と仲間との交流で、独りで書けるようになっていたことに成果が表れているのではないでしょうか。

講師の先生より校長室で、「並行読書の選書について、今回は新美南吉作品でしたが「『ごんぎつね』とストーリーが似ている本を選書の基準にしてもよかつた」「評価基準を精選してもよい」という助言をいただきました。司書教諭との連携が大切です。今後の授業および公開授業に役立てたいと思います。

校内研究担当者より